

# 旧遺愛女学校宣教師館

The Missionary House of the Iai School for Girls

## 女子教育に献身した宣教師の共同生活の場

函館市杉並町の旧遺愛女学校宣教師館は、北海道で女子教育を手がけたアメリカ人女性宣教師たちの住宅として、1908(明治41)年に竣工した。複数の寝室や食堂、書斎を持つ美しい白亜の洋館で宣教師たちは共同生活を営み、併設された和館には調理師などの日本人も住んだ。



北海道の気候に配慮して内部に作られたとされる装飾的なアーチ。明るい窓辺で宣教師たちは読書を楽しんだのだろう



白い外壁や屋根窓、八角形のせん塔が目を引き美しい洋館で、明治末期から女性宣教師たちが暮らした。右に続く平屋部分に和室がある



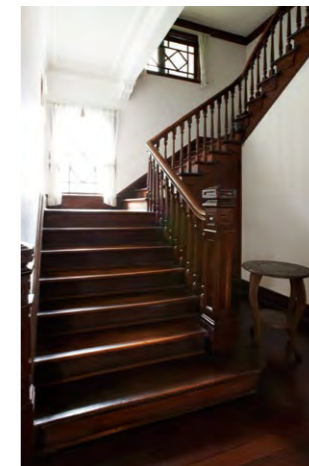
明治期には下見板張りの洋館がたくさん建てられた

### A shared house for missionaries who were dedicated to the education of Japanese girls

The Missionary House of the historical Iai School for Girls in Sugunami-cho, Hakodate City was built in 1908. It provided housing for female American missionaries who came to Hokkaido to provide education for Japanese girls. The missionaries lived together in this beautiful white Western-style house containing multiple bedrooms, a dining room, and a study room. The adjacent Japanese-style annex served as living quarters for cooks and other Japanese staff.



せん塔の内部にあたる1階家族室。宣教師たちが集い、くつろいだ時間を過ごした共有スペース。暖炉には薪をくべて暖をとった



2つの踊り場や装飾的な手すりがみられる階段。建築家ガーディナーらしさが伺える意匠



宣教師の寝室。洋風の居室にふすまのクローゼットをしつらえてある



2階の食堂。奥が炊事室で、壁の四角い小窓から料理を出した



2階の炊事室。食事やお茶の時間に日本人調理師が腕ふるった



調理師夫婦が暮らした和館内の和室

旧遺愛女学校はアメリカのメソジスト派キリスト教会の寄付・援助によって1882(明治15)年、函館の元町に開校。関東以北で最初のミッションスクールとして英語や音楽、聖書を基にした道徳を士族の娘に教えた。その後、学校は現在地に移転。校舎とともに旧遺愛女学校宣教師館(以下、旧宣教師館)が建設され、数名の宣教師たちの住まいとなった。旧宣教師館は下見板張りに胴蛇腹を施した異国情緒漂う外観で、南東角に八角形のせん塔が見られる。当時の北海道では札

幌農学校の演武場(現・札幌時計台)をはじめ、アメリカの建築様式の影響を受けた建物が数多く建てられたが、旧宣教師館もアメリカ出身の建築家、J.M.ガーディナーの設計であるといわれている。館内は食堂や書斎といった共有スペースと宣教師用の個室を明確に区別して配置する典型的な洋風住宅の構造である。その一方、ふすまの扉を持つクローゼットなど、和風のしつらえが見られるのは時代の雰囲気伝えてユニークである。建設当時、周辺は広い草原で水道や電気

は通じていなかった。そのため、玄関ホールや3連アーチのある広間などのあちこちにフックを付けてランプを吊り下げ、生活した。また、地階のボイラー室からラジエーターへ蒸気を送って暖房とした。食事など、暮らしを支える日本人調理師や用務員が廊下の先の和館に住んでいたが、宣教師の居住区との間に扉や階段を設け、宣教師の生活を邪魔しないように工夫されていた。旧宣教師館はその構造や意匠が優れており、保存状態も良好であることから、2001年に国の重要文化財に指定された。

